

Wood Letter

Ψ Moku推し Ψ

令和8年3月vol.60



WOODコレクション(モクコレ)2026

森林環境譲与税 ご担当者の皆様へ

日頃より、東京の木 多摩産材をはじめ国産木材の利用推進についてご理解及びご協力をいただき誠にありがとうございます。

3月を迎え、春らしい日差しを感じる季節となりました。先月23日は青梅市では夏日！2月に夏日となったのは23区や多摩地域では観測史上初とのこと。都心も気温が23°C近くまで上がり、春を飛び越えて夏が来たかのような様子でした。この時期は一年の中でも寒暖差が大きく、体が環境の変化に対応しにくい時期です。さらに、花粉の飛散も本格化し、気がつかないうちに体調を崩してしまうことも。外出時のマスク着用や帰宅後の洗顔など、日常のちょっとした心がけが体調管理につながります。季節の変わり目を上手に乗り切りながら、無理なく春本番をお迎えください。

ということで今月も“Wood Letter Ψ Moku推し Ψ”vol.60をお届けいたします。ぜひともご参照いただき、貴団体内の関係する部署にも転送いただくなどご協力をお願いいたします。

：森づくり推進担当一同：

(1) 公共施設への多摩産材利用促進プロジェクト 制度の一部改正

平成30年度にスタートしました区市町村向け補助事業「公共施設への多摩産材利用促進プロジェクト」につきまして、令和8年度より制度の一部を改正する予定です。

主な改正点として、多摩産材等の一層の利用促進を図るため、木造化および内装木質化については、東京の木多摩産材を使用した場合に限り、国産材を補助対象に加えました。

* 国産材の補助率は1/3かつ東京の木多摩産材量を上限とします。

引き続き東京の木多摩産材の活用をご検討ください。

区分	補助上限額	事業の内容
木造化	工事費 6,000万円 設計費 3,000万円 (補助率1/2国産材の補助率は1/3)	建築物の構造材に東京の木多摩産材由来の建材をあらわして使用する木造建築物（混構造建築物の場合は、木造部分） ▶ 東京の木多摩産材由来の建材の使用割合が30%以上、または東京の木多摩産材由来の建材の使用量が50㎡以上
内装木質化	総額 3,000万円 (補助率1/2、内装木質化の国産材の補助率は1/3)	床、壁、建具等の仕上げ材として東京の木多摩産材由来の建材を使用する内装木質化 ▶ 東京の木多摩産材由来の建材の使用量は、1㎡当たり0.01m ³ 以上かつ、計画全体における東京の木多摩産材由来の建材の使用割合が30%以上
木製遊具の整備		東京の木多摩産材由来の製品等を使用した、定置型木製遊具の整備 ▶ 東京の木多摩産材の使用量は、製品個々につき1㎡当たり0.08m ³ 以上
木製什器の整備		東京の木多摩産材由来の製品等を使用した、木製什器の整備 ▶ 東京の木多摩産材の使用量は、製品個々に使用される木材の30%以上
木製外構施設の整備		東京の木多摩産材由来の製品等をはじめとする国産木材を使用した外構施設の整備 ▶ 東京の木多摩産材をはじめとする国産木材の使用量が、1㎡当たり0.012m ³ 以上（うち東京の木多摩産材の使用割合が30%以上）

(注1) いずれも、使用する東京の木多摩産材等が、日常的に利用者の目に触れられる状態にあること

(注2) 補助対象経費の1/2までの金額を補助、国産材の補助率は1/3で東京の木多摩産材量を上限

(注3) **木材利用推進方針の策定が必要**（木製外構施設の整備を除く）

(2) 神津島村 現場視察

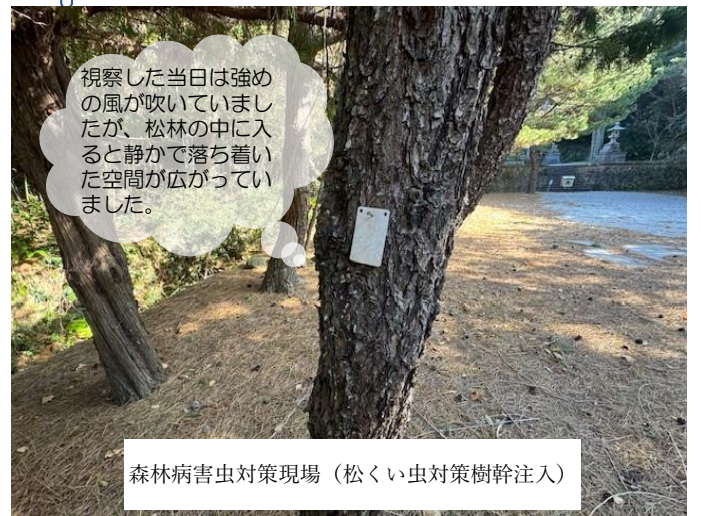
去る12月、当担当にて神津島村へ現場視察を実施いたしました。「公共施設への多摩産材利用促進プロジェクト」をご利用いただいた施設や「とうきょうの木®」の設備・備品、森林環境譲与税を充当し整備された森林等を視察しましたので情報共有します。今後の補助金利用や譲与税の使途検討等のご参考となれば幸いです。



令和5年度、「公共施設への多摩産材利用促進プロジェクト」をご利用いただき、赤枠内の書棚を設置しています。



防風林として利用している松林において、松くい虫の侵入や増殖を防止するため、薬剤散布や幹への薬剤注入を行っています。例年、森林環境譲与税を全額充当しています



(3) 「WOODコレクション(モクコレ) 2026」の報告

2月12日・13日の2日間、東京ビッグサイトにて「WOODコレクション (モクコレ) 2026」が開催され約7,100人が来場しました。「東京の木多摩産材」をはじめ、日本各地の木材製品が一堂に会し、木材の需要喚起と利用拡大を目的とした国産木材の展示商談会として、今回で10回目の開催を迎えました。会場内のテーマ展示エリアでは、日本の森林・林業の現状と課題を切り口に、地域材を活用した製品紹介、AIを活用した木材検収システムの体験、一本の丸太から生みだされる多様な製品の展示、廃材再生師による組立ライブなど、多角的な展示がおこなわれていました。

また、宇宙をテーマにした世界初の木造人工衛星の展示もあり、来場者の注目を集めていました。

さらに、2日間で14のステージプログラムが実施され、著名人を講師に迎えたセミナーでは、用意された席が満席となるなど、会場は終始盛況な様子でした。

このほか、建築コンクール受賞作品の紹介やWoodデザイン賞の展示、学生コンテスト受賞作品の展示も行われ、個性豊かな作品の数々が来場者の目を引いていました。今回来場を逃した方は、ぜひ次の開催時に足を運んでみてください。



テーマ展示エリア



2日間で12のセミナーを開催



世界初の木造人工衛星



MOCTION・MOKUNAVIのブース



おが粉を発酵させた足湯



軽トラに乗せるだけでキャンピング・キッチンカー

(4) 多摩産材利用促進プロジェクト 令和6年度事例

「公共施設への多摩産材利用促進プロジェクト」事業の令和6年度活用事例をご紹介します。東京の木多摩産材と触れ合う場を創出し、更なる利用拡大を図るため、区市町村によるモデル的な公共施設整備に対して支援するこの事業は、令和6年度は16区市町村23事業に対し活用されました。(令和7年度は17区市町村25事業の予定)今回、武蔵野市の公園遊具と奥多摩町の森林セラピー専用遊歩道を紹介します。

武蔵野市事例

木製遊具 (緑町ふれあい広場)



木製遊具 (関前四丁目公園)



奥多摩町事例

登記トレイル



登記ステーション



木製外構



眺望広場 ベンチ



遊歩道 階段

(5) MOCTION 企画展示

木材の大消費地である東京での更なる木材利用の拡大に向け、国産木材の魅力を発信する拠点「MOCTION（モクション）」。

1月22日～2月3日 宮崎県延岡市



延岡市では地域材を活かした建築やものづくりが進み、森林と共に生きる文化が根づいています。展示の中で特に目を引いたのが、大型の木製遊具。週末には多くの子供達が楽しそうに遊んでました。

2月5日～2月17日 広島県庄原市



広島県北部の庄原市の循環型林業の取組を紹介。地域事業者による木育おもちゃ、ナラ枯れ被害木を含む広葉樹を活用した家具、大学や森林組合との連携した実践的な取組事例が展示されました。

3/5～3/24はもくチャレ展示となります。皆様のご来場をお待ちしています！

*もくチャレ（MOCTION STUDENTS CHALLENGE 学生向け木材デザインコンテスト）

ちょこっとコラム（ご存知でしたか？こんなこと）

木材の地産地消

「地産地消」とは、地域で生産された農林水産物を、その地域で消費する取組です。木材の場合、地域の気候や風土に適した木材を活用できるほか、輸送距離が短くなることで流通コストの削減や、二酸化炭素排出量の抑制につながります。

また、川上から川下までの工程を地域内で連携することで、木材産業の活性化や地域経済の発展が期待されます。地域材の生産と活用には、森を育て、木を伐り出す素材生産業をはじめ、木材加工、什器の製造や販売、建築など、様々な木材関連産業が関わっています。これらが連携し活性化することで、地域経済の柱となります。

さらに、木材の地産地消は、地域の森林を保全することにもつながります。安定した収益が得られれば、林業の担い手の確保にも寄与します。人工林を資源として計画的に伐採・利用し、再び植林することで森林は若返り、林業が活発になれば森林整備が進みます。「木を植え、育て、伐り、使う」という木材生産の循環は、林業の振興にとどまらず、森林が持つ防災や環境保全などの多面的な機能を高め、地域の暮らしや安全を支えることにもつながります。



「WOOD LETTER Moku推し（ウッドレター モクオン）令和8年3月vol.60」

〒163-8001 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号 東京都庁第一庁舎21階中央
東京都産業労働局農林水産部森林課 森づくり推進担当
TEL03(5000)7198(直通) 担当:秋葉、伊藤、小山、中田、中村

森林環境譲与税はもとより、多摩産材の利用等東京の森林・林業に関することにつきましてもお気軽にお問い合わせください。